

あくまでも自分史として

# 「岳陽」と共に

第 70 号

発行日  
2026.02. 28  
編集・発行  
井上講四／堂本彰夫  
※連絡先  
〒901-2225  
沖縄県宜野湾市  
大謝名 3-13-24  
教育協働研究所  
～岳陽舎～  
(井上講四宅)  
Tel:098-963-9282  
E-mail:  
gakuyou17@outlook.jp

## ○日本国憲法の三原則について――

今更ながらではあるが、ここでは、いわゆる、日本国憲法の三原則について言及しておきたい。たとえそれが、他国(占領国)から押し付けられたものであっても(単純には、そうとも言えないが?)、そこに書かれていることが、まさに「日本国(民)」にとつて、普遍的に価値あるものであれば、それを最大限に尊重すべきことは言うまでもないことである! 少なくとも、そこに示されている「国民主権」「平和主義」「基本的人権の尊重」の三原則は、ある意味人間社会の「至宝(原理)」とも言えるであろう(ただし、各条文が、すべてそれらを、完璧に保障/担保しているかどうかは別問題!!)!

それはともかく、今、何故、敢えてそのことを持ち出したのかというと、今般の衆議院選挙において、その三原則が、どのように、選挙戦、各候補者(政党)に共有(?)されていたのか? もちろん、明示的には、「選挙公約」や「党是(基本方針)」等が、それを判断する材料となるが、私が、他方で気になるのは、そこで繰り返された言動である(特に基本的人権の毀損?)! いくら選挙に勝つためとは言え、憲法に示されている貴重な原則が、他ならぬ彼らによって、無残にも踏みまじられているように思えたからである!!

剥き出しのエゴ、根拠のないデマ拡散、見境のない誹謗中傷、あるいは意図的な世論操作? 等、とても見られたものではなかった(ただし、これは、私が、いわゆるネット記事を多読したことによるが?)! いずれにしても、大事なことは、(時々刻々と変化する)その「時々の今」をどうするか? 保守であるが、革新であるが、その一点(三原則の保持)で、対峙(解決)すべきであるということである!!

## ○「憲法改正」について

本当にしつこいようであるが、折角上記で「憲法の三原則」について述べたので、ここでは、その勢いに乗って、その改正論議にも触れておきたい! 事実、その論議が、いよいよ現実味を帯びてきたことによるが(国会の情勢の変化による!)、一度は、これについても言及しておきたかったということである(市井人の、しかも老兵の? 独りよがりの呟きであることは承知の上で! 多少笑?)!

とにかく、これについては、以前より、いわゆる「保守」の側から提唱され続けているわけであるが(その論点や経緯については、ここでは直接触れない!)、冷徹に捉えれば、自国の憲法が、時を経て現時点において(そして将来においても)、それに相応しくないものとなっているとしたら、たとえそれが、国の最高法規であったとしても、改正しなければならぬことは言うまでもない! いかんたる法律(憲法も法律である!)も、何のためにあるのかを考えば、ある意味至極当然のことである! だから、その論議自体は、歓迎されなければならないのである!

ところで、問題は、どの条項の改正が必要なのかというところになってくるようであるが、ある特定の条項だけのそれであれば、折角の好機を逸することになる(頻繁な改正は好ましくない?)! 要は、自らの社会(国家)が、普遍的な三原則の下で、全体としてどうあるべきなのかを、それこそ「国民の総意」として、新たに表出することが重要なのである! 小手先の技術論(特定部分の改変だけ)が先行すれば、かえって禍根を残すことにもなる!! そこに責任と覚悟が求められることは言うまでもない!

## ○虚数について(ついでに)、二二ではとんだ数学談義!!

さて、ここでは、上記とはまったく無縁の、しかも、かなり怪しげな話題となるが、先日、「禁断の数学」虚数とは何か? “存在しないはずの数”が宇宙を支配していた! 電磁波・相対論・宇宙論にも潜む「 $\pi$ 」の痕跡」というネット記事を見つけた! それらは、「ASTRENCE(アストレンス)宇宙物理探求ラボ」という動画シリーズで、一時期、宇宙物理学に興味を抱いていたことであつて(仰々しいが!)、最近、よくその記事を視聴している! もちろん、その具体的な紹介は出来ないが、虚数が、どのようにして発見され、それが、現在、有用な物理法則の解明(説明)に、いかに役立っているかという話であつた(「回転」という動きを、数としてそのまま表せるという驚くべき事実! オイラーの公式! すなわち、「虚数が単なる計算上の記号ではなく、回る・振動する・巡るといった自然の動きを記述するための道具である」ことを、はっきりと教えてくれている」ということであつた!

ところで、この虚数(i)について、現職時代の、学生達との雑談(恋愛話?)のことが思い出される。当時は、男女学生の付き合い(情報)を、かなりキャッチしていた私であるが(今では、おそらく「法度?」、学生達に、実しやかな嘘?を披歴していたのである。そこでは、まずは(i)(愛)とは虚数であり、2乗すれば実数(マイナス)となる。そして、その絶対値を取れば、正の数(プラス)となる! つまり、二人は、最初は、ほとんど分からない状態(虚数、それが付き合う(仲良くなる)ということ)は、一応は分かり合える(はず)状態(負の数だが実数)となる! そして、それが、互いが努力(協力)し合える状態(正の数)になれば、本物(実物)となる! まあ、そういうことを言っていたのだと思う!!

ちなみに、これはまったくのオチであるが、高校時代に出くわしたこの虚数(複素数)は、当時の私には、まさに化け物?であつた(確率も?)! それ故に、この(i)(愛)のギャグ?は、私の、それに対するある種の復讐劇であつたのかもしれない! 学生達は、とんでもないとはつちりを食つたとも言える(笑)! ただし、当の学生達は、そのままゴールインした者もいれば、破局?に至つた者もいる! それこそ、人生いろいろである!

(井上)

○文系(保守?)と理系(革新?)!どう融合するのか? ○神仏習合?我が国は、それによって日本となった?

最近、自分でも(ここでは堂本!)、本当にびっくりしているが、ユーチューブでの動画視聴が続いている!最初た!周知のように、その日は、かの初代天皇神武が、大和(古代史に関するものがほとんど)であったが、何故か、政治に関するものや世界情勢、そして、文芸や思想に関するもの、さらには、宇宙や科学に関するものと、そのテーマも真実とは思えない?、そのことと、自国の建国を寿ぐこととは、必ずしも同じではない!!何故なら、どこをもって、何をもちて建国とするかは(実は、「日本」という国名も、いかに、今まで出会ったことがないような知識や情報を、そこから受けている(ある意味、今が一番、俗にいう「勉強」をしていると言ってもいい?照れ笑い?)!

ここでは、そうしたものの出会いから、これも、いつかは書いておきたいと思っていたことであるが、いわゆる「文系」と「理系」のそれぞれの「知」が、どのように融合していけばよいのかについて、少しだけ言及(妄想?)しておきたい!なお、ここでは、表面的(短絡的?)には、「文系」と「理系」という対称軸を出しているが、別軸としては、「保守」と「革新」ということにもなるかもしれない!!ただし、その交錯もあるので、必ずしも、この建付けは、妥当ではないのかもしれない!!だから、それを承知の上での、超個人的な?見解ということである!

ということ、それはそれとして、ここで言いたいことは、片方の「知」だけでは、世界(ひょっとしたら宇宙全体?)を理解、あるいは受け入れることは出来ない!ということである!そんなことは、当たり前だと言われるかもしれないが(事実、そうである!)、しかし、それは、究極のところ、個々の人間の認知(納得)という点では、どこかで融合するのではないか?そういうことである!文系が、言葉(概念)／価値／イメージ、理系が、数式／論理／実証を駆使して、認知対象の意味や法則を追求(発見)するわけであるが、その存在意義は、その双方の認知から得られる「知の総合性」を、現実世界への鼓舞と警鐘へと、如何につなげるかである!!それがなければ、単なる知の遊戯となる!!

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕700

○続いて、「日向(三代)神話」を探る?ーその4ー ということで、ここではこの『日向(三代)神話を探る?』の最後となるが、同神話の総仕上げ?としての「神武東征」について、少し触れておきたい。問題は、果たしてこの物語が、本当に史実であったのかどうかということであるが、私としては、この東征譚自体は、いわゆるフィクションであると捉えている!そもそも、BC660年頃という時期設定がおかしいし、先に到着していたとされる饒速日命/ナガスネヒコ勢力との戦闘記述も、当時としては考えられない(その頃は、奈良盆地はほとんどが湖沼地!)であれば、何故、「記紀」はそのような嘘をついているのか?むしろ、そちらの方が、重要な解明視点となるということである!!

要は、何故「神武」という初代天皇(神皇)から「天皇」へもろろ、その天皇は後世の賜号であるが)を、その時期に、しかも、九州(物語的には「南九州」)から東征してきた神(人物)として描いているのかということである!!考えられるのは、時期(芝連(おそろ)の世紀前後?)、それに該当する人物(勢力)が、例の「東征ルート」を経由して、大和に君臨(臨?)したということを示したもののなか?それとも、その事実(實証)に反響して、後の人物(勢力)が、あたかも、そのような「東征」を敢行したかのように見せかけたかの、どちらかであろう!!

私自身は、現在までのところ、後者の捉え方が妥当であると考えているが、その場合、実際のモデルは、「東征」を行ったのが「カモ族」、そのように見せかけたのが「持統・藤原勢力」(「記紀」編纂側)であったと踏んでいる!!というのも、その「カモ族」は、始祖「建角身(つづみ)命」が、南部九州の曾良(そら)の嶺に降臨したとされており、「山城国風土記」逸文、彼らは、東征ルートの重要拠点「玉置」に移動(遷居)し、その後、彼ら(玉置勢力)は、出雲を抱き込み、近畿・大和に進出している!しかも、そこで重要なことは、彼らは、その吉備において、一方の「ワニ族」と合併していたようでもある(足守川流域/桶狭間等)「手焼埴土器」前方後方墳勢力)。初期の「纏向遺跡」は、彼らのもの!!(つづく) (堂本)

- ・ 憲法改正 そのプロセスは 堅牢堅固! だが重要なのは そこになく!!
- ・ 虚(数)と実(数) 相まみれての この世界? だが科学は それさえ整合さす?
- ・ 文系(保守?)と理系(革新?) 双方共に 人間との知! 故に最後は 合一す!!
- ・ 神仏習合 考えてみれば 壮拳? いつ誰がそうしたか? それが日本人!!